

猪の瀬戸の 動物相

猪の瀬戸一体は、大分県下の山地でも、もっとも豊かな自然が残されている場所だと誇りをもって紹介できる。たくさんの種類の植物たちが長い歴史のなかで、それぞれの種類どうしで他の種類とうまくまじりあって特別に複雑な森や変化に富んだ草むらを作っています。植物が複雑に混じりあった自然界は、そこを利用する多くの動物たちにとっても変化に富んださまざまな「住処」や「食べもの」を与える役割をはたします。「かくれ場」や「子育ての場」を与えてもいます。

夜の森では動物たちの安心した姿がみられる



若いオス・メスのペア



お腹に赤ちゃんを持っているメスのタヌキ



猪の瀬戸を広く移動しながら利用している動物たちの代表はシカ、イノシシ、キツネ、テンなどであり、木の根や草むらで上手に暮らしている動物たちの代表が、アカネズミやカヤネズミです。

シカやイノシシやネズミたちは、木の芽、草の葉、木の実などを主食にするし、キツネやテンは、ネズミや小鳥たちもつかまえて食べています。昆虫たちの幼虫などもイノシシ、キツネ、テン、ネズミなどに食べられるし、おいしい落ち葉や木や草を食べて育つ昆虫の幼虫たちが多ければ多いほど、キツネやテンの暮らしは安定しています。



シカの糞



クワガタの糞

早春の猪の瀬戸では、動物たちのくらしの痕跡がよくわかる

昆虫類では、小さなチョウ、ガに県下でもめったに見られない綺麗なものが生活しているし、オサムシやカミキリムシは、虫好きな人々にはこたえられないほど楽しめる場所として知られています。

水との関わりが深い猪の瀬戸の自然は、湿地型の水との関わりや小川や溪流の形をとる水との関わりという二つの型で水と関わっています。湿地型の水場では、トンボ類やカゲロウなどが多く、河川型の水場では、トビゲラやカワゲラなどがほかの河川に比べるとちょっと少ないのが特徴です。

湿地型の水場でも河川型の水場でもたくさんのカエルと出会える。流れのへりの土の中から鳴き声が聞こえてくるし、猪の瀬戸には春から夏にかけてカエルが楽しめる代表的な自然も残っています。



落葉が住処、アカネズミ

鳥が少ないせいか、猪の瀬戸はクモ類が多いことでも知られている。森の茂み、草むら、落ち葉のなか、水辺などいろんな植物や水や土が作り出す環境の中で、網を作るクモや歩きまわるクモや花の上に止まって虫がくるのを待ち続けるクモたちがたくさんいます。

猪の瀬戸で自然を楽しむとき、虫、クモ、鳥、けものたちのつながりや木や草と虫たちのつながりに注意して見ると、自然の仕組みがとてよくわかります。

「生態系」や「エコシステム」ってよく聞くことばだけど、猪の瀬戸の自然の仕組みは、とてもよく整った「生態系」のつながりがみられ、豊かなエコシステムがすぐれた状態で残されていることに気付いてもらいたいです。



湿地から森へヒキガエルの行動圏は広い



霧の日、クモの造形に出逢える

動物たちの子育ての場、森と草原・湿原のさかいめ